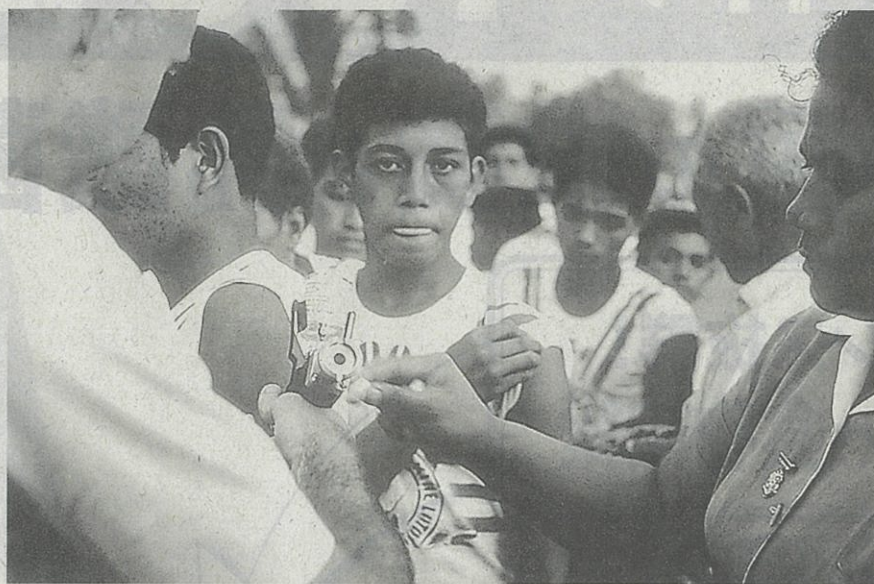
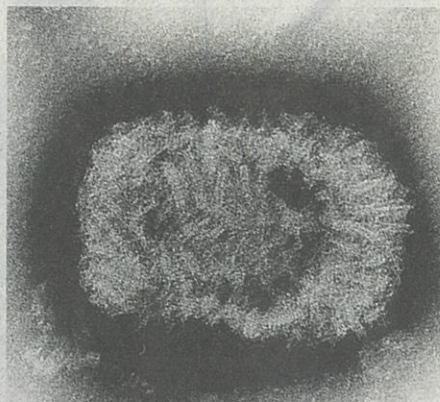


感染症・天然痘の根絶から学ぶ

新型コロナウイルスとは“共存”の道



南太平洋の島国トンガで行われた天然痘ワクチンの接種＝1964年(米疾病対策センター提供)



天然痘ウイルスの電子顕微鏡写真(米疾病対策センター提供)

人類が根絶できた唯一の感染症が「天然痘」だ。地球規模のワクチン接種が効果を上げた。世界的な流行が続く新型コロナウイルスの収束にも開発中のワクチンが重要な役割を果たすとみられるが、いつになったら実用化できて多くの人に接種できるかはまだ見えない。いったん市中に広がったウイルスを消し去るのも難しそうだ。文明と感

「拙速なワクチン開発は危険」

人類が根絶できた唯一の感染症が「天然痘」だ。地球規模のワクチン接種が効果を上げた。世界的な流行が続く新型コロナウイルスの収束にも開発中のワクチンが重要な役割を果たすとみられるが、いつになったら実用化できて多くの人に接種できるかはまだ見えない。いったん市中に広がったウイルスを消し去るのも難しそうだ。文明と感

「天然痘と新型コロナウイルスはいず

天然痘は感染から7～16日で

発熱し、顔や体に発疹ができる。うみなどに含まれるウイルスが感染源。致死率は20～50%にもなるが、症状がある人しか感染を広げない。患者と接触者を取り囲むようにワクチン接種することで封じ込めることができるようになった。世界保健機関(WHO)は、1980年に「根絶宣言」を出した。

これに対して新型コロナウイルスはせきや発熱などの症状がない人からも広がる。無症状のまま動き回って会話に伴う飛沫でウイルスを拡散する。検査で感染者を見つけても多くの場合は人にうつした後で手遅れだ。「ワクチンができて天然痘のような封じ込めが通用しない」と山本さん。「天然痘は人類との付き合いが長い。人に適応しすぎてむしろ根絶しやすい

ただ「最近の研究では人口の3～4割が免疫を持つまでは収束は難しいとされる。どうやってそこに持って行くのが難しい」と山本さん。

流行が長く続くと高齢者や持病を持つ人が危険にさらされる。リスクが高い人の感染を最小限にとどめ、医療崩壊を起さない工夫が必要だ。

一方で拙速なワクチン開発はかえって危険だ。山本さんはロシアや中国、米国などで政治主導の動きが出ていることを懸念する。

ワクチンは18世紀末の英国でジェンナーが天然痘を防ぐために試みた種痘が起源。その後の天然痘ワクチン開発では脳炎などの副作用も起きた。

多くの健康な人に接種するワクチンは特に高い安全性が求められる。山本さんは「安全性と効果を3段階で確かめる現在のワクチンの承認プロセスは、多くの失敗の反省を踏まえてつくられた。開発を急ぐのはいいが、手続きを省略するのは許されない」と指摘する。

今は多くの人が新型コロナウイルスに対する免疫を持たないが、流行が続くと感染して免疫を持った人が増える。子どもから大人、お年寄りまで使える安全で効果的なワクチンが開発できれば、免疫を持つ人をさらに増やせる。流行が広がりにくい「集団免疫」ができる。

「集団

(共同＝吉村敬介)

心のクスリ

りが苦手「集中力がない」、言われました。発達障害のあまた「言葉とおりの意味に受ける人は、別名・幸せホルモン

健康まっ

ド書

療ガイドライン改訂委員会が編集した。昨年、3年ぶ